



市議会議員  
佐々木ナオミ

# 小田原市議 佐々木ナオミの 議会な日々ニュース

2011年  
臨時号!!

3月20日 発行

発行：佐々木ナオミ後援会「チーム・ナオミ」 発行責任者 佐々木ナオミ  
〒250-0045 小田原市鴨宮 1 6 7 杉山ビル 2 F tel&fax 0465-34-2834  
メール love-and-peace@naomi-sasaki.com HP <http://naomi-sasaki.com/>

## つながろう東北！ 私たちに出来ること

### 小田原市の取り組み

#### 支援物資の受け入れ

3/22日まで(午前9時～午後5時)、土曜日・休日でも行います。22日は正午まで。

物資運送の出発は3月23日(水)。

市役所本庁舎一階の守衛室前(生涯学習センターけやきそば)で受付。

- ・支援先は、小田原市が関係の深い釜石市と多賀城市。
- ・受付物資は、搬送に便利のように分類して箱単位で。基本的には新品で

(ただし、ジャンパーや 毛布はクリーニング済でも可)  
飲料水(ペットボトル)、米、保存食、カセットコンロやボンベ、毛布や、ジャンパー、下着。日用雑貨(ブルーシート、トイレトペーパー、生理用品、紙おむつ マスク、ウエットティッシュ、懐中電灯、乾電池、使い捨てカイロ、歯ブラシ、石鹸など)

・担当は小田原市企画政策課 33-1400



#### 義援金

- ・小田原市役所総合案内で ・各支所、マロニエなどの各住民窓口 ・社会福祉センター、保健センター、いそしぎ、市立図書館、かもめ図書館

・担当は、小田原市福祉政策課 33-1861

#### 被災者の受け入れ

小田原のアリーナに1000人の受け入れを決定。3月19日の時点で、いわき市からの11人の被災者が宿泊しています。それに伴い、アリーナの使用はしばらく中止。

シャワーや暖房・駐車場を提供。

※調査の結果、こちらは自力で来られる方を随時受け入れていくとのことで、アリーナは、そのための場所の提供。今後増えていく場合の受け入れ体制まではまだ未定とのこと。1カ月程度を想定。早急な対応が求められます。

また、被災地へと受け入れに出向いていくことの必要性も！また、放射能汚染地域へは戻れず定住を希望する方への住居をはじめとした生活支援も、今後の課題だと思います。

おお!

### こんな県の取り組みも!

#### 被災者受け入れホームステイボランティアの募集

東北地方太平洋沖地震で被災し、現在、不自由な避難生活をされている小中高生に安定した学校生活を送っていただくため、ホームステイを受け入れていただけるご家庭を募集します。

問い合わせ かながわ県民活動サポートセンター ボランティア活動サポート課 電話 045-312-1121(代表)(内線)2820 (平日 8時30分～17時15分)



### 相馬あしがら尊徳基金会設立!

私が代表を務める市民政治グループ@あしがらでは、会員の有志で、「相馬あしがら尊徳基金会」を設立。小田原とゆかりの相馬(かつて、二宮尊徳が天命の大飢饉の際に復興に尽力した)をサポートする(仮)「相馬あしがら尊徳募金」を始めます!

市民の思いを形にして、この危機を、相馬市とのさらなるつながりを築くチャンスととらえ、出来ることから始めます。現在口座開設中! @あしがら事務所(34-2834)、または佐々木ナオミ事務所(佐々木携帯080-5484-1634)で受け付けています。

## 平成23年度の予算審議のご報告！

3月4日から17日まで、平成23年度予算を審議する、12名の委員で構成された予算委員会が開催されました。私も予算委員の1人として審議に参加しました。私が気になる予算をご報告します。

### その1

#### ～学校施設の維持管理に関して～

予算を広げて、積極的な整備を！

学校の修繕についての要望をさまざまに受けますが、どうも対応が遅い！子どもが長い時間過ごす学校が安全でなければならぬはず。雨漏りがする、換気扇がない、備品が壊れている、などなど、小さなものから大きなものまで、さまざまな要望があります。こうした要望に対して、教育委員会では予算の範囲内で対応していくとのことでしたが、果たして、それでいいのでしょうか？

昨年度の大型の台風や、このたびの地震など、学校が市の広域避難場所となった場合も考え合わせれば、なおさらのことです。矢作小の体育館などは窓枠が古いために雨が吹き込んできています。

子どもの安全を視点を置いた学校施設の管理の計画を策定し、教育委員会が点検を行い、積極的な維持管理をすべき、そのために、予算の拡大を要望しました。

### その2

#### ～自治基本条例に関して～

まずは、行政が襟を正す条例にすべき

自治基本条例について、私自身は制定すべきと思っています。地域活動や市民活動はもちろんのこと、市民の自治や権利を保障するために、首長、議会、行政のすべきことを明らかにすることためのものであってほしいと考えています。

今回の提案のあった自治基本条例は市民の役割に重きを置いています。たび重なる市の職員による不祥事が発覚した状況での提案は、市民感覚とずれている！と私は思います。

さらに、自治会という地域の組織の性格を条例で制定するのは、それぞれの地域性を持つ自治会の独自の活動を妨げることになりかねません。

条例の一部内容をも変更した修正案を提出し（委員会では否決）、市の条例案には反対しました。

### その3

#### ～危機管理～

続発する大規模災害の教訓を活かそう！

災害時の学校の対応、また、原発に対する対応など、今回の地震をきっかけに、防災対策についての新たな課題が出てきました。

特に原発事故の対応については、神奈川県内で、放射能施設がないために、特に対策はしておらず、国レベルの問題との認識でした。あまりに危機感がないのでは！と指摘しました。

また、今回の大震災に関して、小田原は被災者の支援にこそ回すべきと提案。被災地への義援金や物資の支援、さらには、被災者の受け入れを積極的に行い、今後の地域連携に活かすべき、と訴えました。

市長は現在検討中と答弁。その後、物資の受け入れや被災者の受け入れなどの発表をしました。他市の対応と比べるとちょっと遅い気もしますが、とにかく、しっかりとした受け入れ体制の構築を望みます。

### その4

#### ～競輪事業について～

売り上げは危機的状態！

廃止務含めた検討を！

平成19年に出された競輪事業検討委員会の答申では、廃止を検討する時期として、「赤字、もしくは赤字が想定される事態」としています。

昨年度は売り上げが落ち、一般会計への繰り入れはその前の年より2億円カットの1億円。今年も予算では昨年度と同額。また、基金の積み立てで、廃止の際にかかる費用が賄えるのかという部分も、不安な点が予算委員会での議論の中で見えてきました。「赤字が想定される事態」は今です。

副市長は「検討をしたいなあ、と思っている」という答弁。廃止か存続かを議論するためにも、早急に、廃止に関わるシミュレーションを策定し、各種保障費なども含めた、現実的な数字を確認し、提示すべきと訴えました。

※3月議会は3月24日が本会議最終日です。